

2023年度 第1回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2023年6月24日(土) 10時～12時

◇方法 ZOOMを用いたオンライン

◇参加者

現職教員：新宮（奈良女子高等学校）、谷垣（青翔高等学校）、中谷（和歌山大学附属小学校）、奥戸（奈良市立平城小学校）、阿部（山形市立千歳小学校）、原（奈良学園高等学校）、中本（田原本町立田原本小学校）、島（大牟田市立吉野小学校）、

企業：吉田様（GEX）、川西様（GEX）

源流館：尾上、成瀬、上西、古山

学生：木村、田中、東、澤井、長嶺、芝田、井上（教職大学院）

大学：大西、中澤

計 23 名

【セミナーの内容】

1. 川上村及び森と水の源流館の紹介（尾上氏）
2. 源流館スタッフの自己紹介
3. ESDの授業づくりの基本（中澤）

（1）ESDの大きな枠組み

①持続可能な社会の創り手を育てるため、価値観と行動の変革を促す教育である ということ。
（経済重視だけでは地球・人類社会は持続不可能である）つまり、些末な知識や技能の習得よりも、人間性の育成に重点がある。

②ESD・〇〇 の特徴

- ・ ESD・環境教育 ESD・人権・平和教育 ESD・国際理解教育
ESD防災・減災教育 ESD・気候変動教育 ESD・文化遺産教育など
- ・ 現状把握だけでなく、過去との比較から現状をクリティカルに捉えなおし、目指したい将来を意識し、そのための行動化を促す。（時間軸）
- ・ 現状把握だけでなく、他地域との比較から現状をクリティカルに捉えなおし、目指したい将来を意識し、そのための行動化を促す。（空間軸）
- ・ これまでの自然現象・社会現象の変化における先人の働き、現代まで受けついでこられた人々（現在進行形を含む）にフォーカスし、あこがれ・感心から次世代を担う当事者意識を育む。（人から学ぶ、ロールモデル化）

（2）ESDの教材を見つける

①様々なセミナー、シンポジウム、ワークショップ、講演会に自分から参加して、刺激を受ける。
また面白そうな人を見つけて「名刺交換」する。

②身近な地域を中心に、教員自身が関心のあるネタを探す。

- ・ 文献調査：〇〇市史を読む。図録を読む。解説を読む。ミニコミ誌に目を通す。
- ・ 現地調査：現地に行って、自分の目と身体で捉える。
- ・ インタビュー調査：博物館などの学芸員にインタビューする。現地の人にインタビューする。「名刺」を持参すること。

(3) ESD教材を深掘りする

- ・研究ノートの作成（PCでも可）
- ・教材に関係ありそうな場所を訪問し、比較し、共通点・相違点の抽出。
- ・教材に関係ありそうな人を訪問し、根掘り葉掘り聞く。何度も行く。

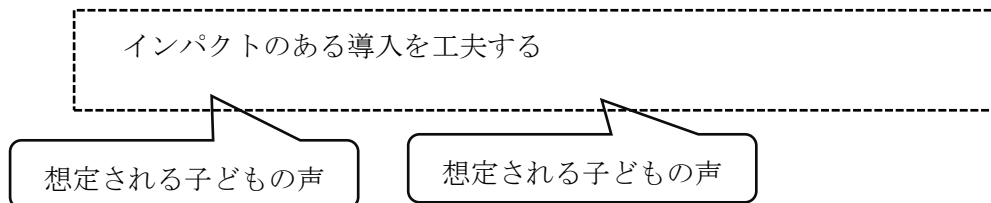
(4) 単元をデザインする：単元構想案を作成する（大西氏）

【単元構想案の様式】

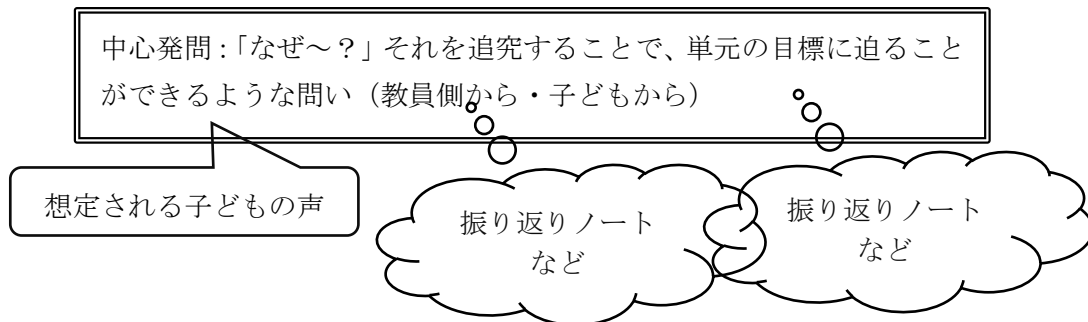
3つの発問で単元をデザインする：単元構想案を作成する（A4で1ページ）

1. 単元の目標
2. 単元展開の概要

導入

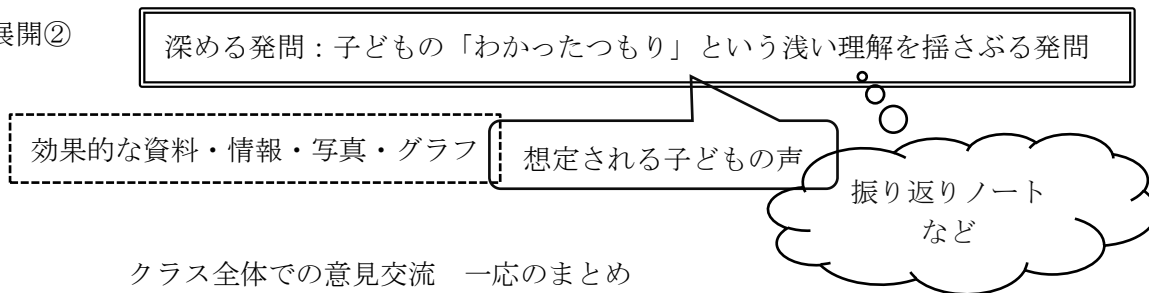


展開①



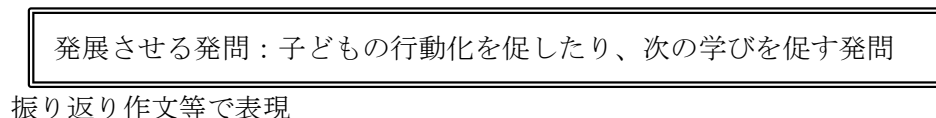
各グループでの仮説の作成と調査活動
各グループでの調査活動のまとめの作成

展開②



クラス全体での意見交流 一応のまとめ

展開③



○ESDの価値観、視点、資質・能力をあと付で考える（これが授業における力点になる）

6. ESDにおける評価について

- ・自己評価カードを蓄積し、それをもとに学習後にレポートを作成し、メタ認知力を高める。
- ・相互評価により、①アイデンティティ形成、②最近接発達領域への刺激を行う。